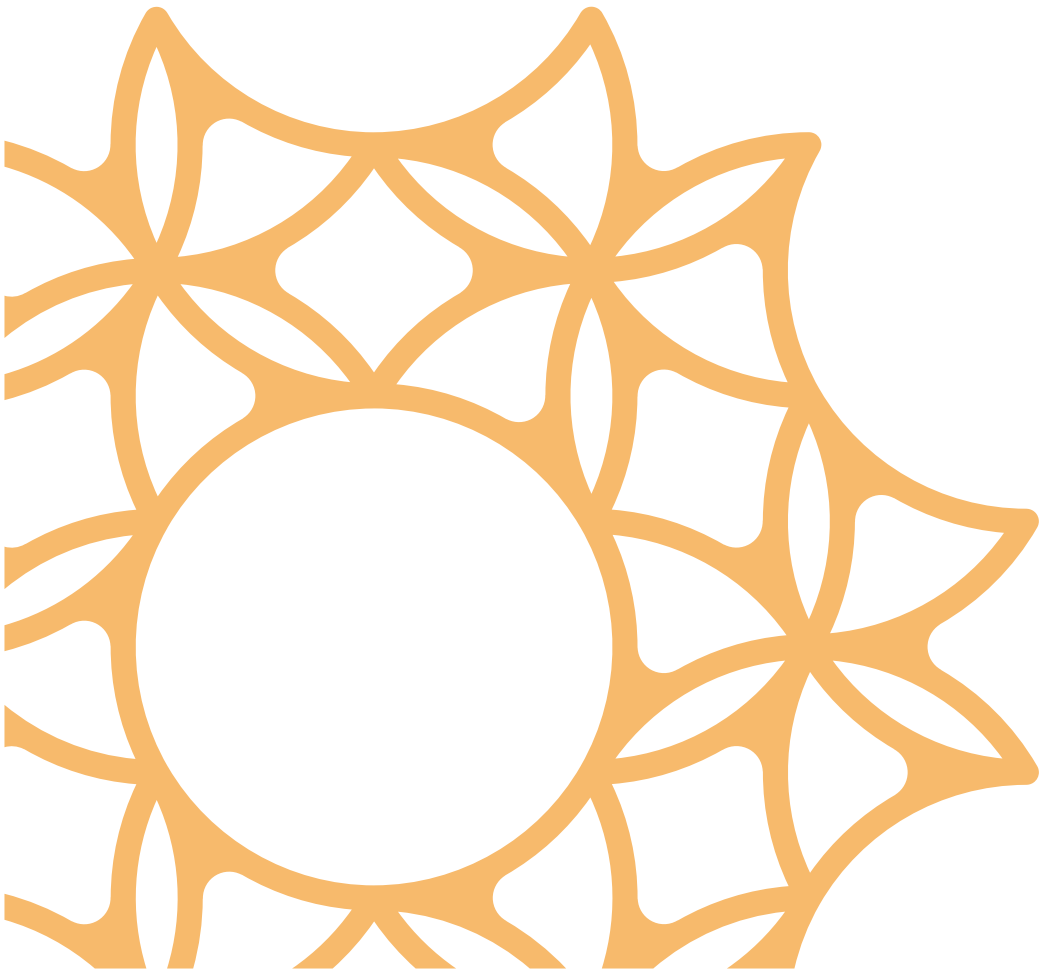


KASEI

製 作 物

カ タ ロ グ

2 0 2 3



目次

机・椅子	ばったり床几	…02
	Hourglass chair	…03
	「名前」のない椅子	…04
	ミニちゃぶ台	…05
	JABARA chair	…06
	PULL chair	…07
	住戸周り	展開式ついたて
ippo ippo		…09
ステップアシスト		…10
広がる居場所		
一仮設住宅から住宅街へー		…11
布団干し台		…12
ふみ台		…13
収納	宅配ボックス	…14
	Wood cube	…15
	マトリョーシカ×□=	…16
感染症対策	半透明屏風	…17
その他	領域を縫う	…18
	post garden	…19
	蘭草の行燈照明	…20
参加学生		…21

ゆったり床几



▲ 折りたたむと市松模様の壁となり、殺風景になりがちな壁に暖かみを与えます。往来する隣人や車両の通行の妨げになりません

日本の町家建築に見られる「ゆったり床几」に注目し、開口部の周辺や壁面を利用し、殺風景になりがちな仮設住宅に親しみと生活を拡張した空間を作ります。

取り付ける場所は壁面や縁側だけでなく、自立することによりそれ単体での使用も可能です。また、ゆったり床几の機構を用いたコンパクトな設計になっており、複数重ね合わせることで、大人数でのコミュニケーションにも活用出来ます。加えて、木を使用することにより生活に暖かみを与えるような提案をします。



▲ 広げると二人掛けの机椅子として利用でき、組み合わせると大人数でも利用可能

材料

- ・ 木材
 - 19×90×638 (mm)
 - 38×90×700 (mm)
 - 19×90×560 (mm)
 - 38×38×140 (mm)
- ・ 差し込み金物

Hourglass chair



▲ ひっくり返すことによって大人用と子ども用の椅子の二役をこなします



▲ カバンをかけたたり ...



▲ モノを飾ったり ...

仮設住宅の問題点として挙げられる中に広さの問題とコミュニケーションの欠落などがあります。その問題を解決すべくスタッキングで平面的な広さ問題を解消し世代間コミュニケーションを創出できる幅広い年代の方々に利用していただけるような椅子を設計しました。

「ものづくりを通して人々を笑顔に」を合言葉に仮設住宅での生活を楽しく豊かなものにして頂きたいと考えています。「砂時計」をモチーフとし、今までありそうでなかった“ひっくり返す”行為をデザインの中に取り入れました。

「名前」のない椅子



▲ 複数のベンチを組み合わせることで、台形を生かしたさまざまなデザインを創ることができます。



▲ 2脚重ねて運んだり物を置いて棚としても利用することもできます。



▲ 円形に組み合わせて話し合いや木の周りにベンチとして配置することもでき、利用者のコミュニティ創出に繋がります。



▲ 直線にベンチを並べることで、多くの人が座ることができ、イベント等でも利用できます。

直径50cmのみにちゃぶ台を提案します。天板には穴が開けてあり、2枚のMDF板とケント紙または写真用紙、アクリルが重ねてビス止めしてあります。アクリルを固定しているビスを外すことで、使用者が自らケント紙や写真用紙を交換することができます。

大きさは仮設住宅の縁台の幅と同じ50cmで設計しています。住人間での普段のちょっとした会話のツールとして活用してほしいと考えています。

また季節ごとに書き初めなどのイベントや写真撮影会を開催することで仮設住宅での思い出を形として残してほしいと考えています。

ミニちゃぶ台



▲ ケント紙や写真用紙を交換可能にすることでミニちゃぶ台に「使用者によるカスタマイズ性」をもたせています。



▲ 書き初めの様子

直径50cmのみにちゃぶ台を提案します。天板には穴が開けてあり、2枚のMDF板とケント紙または写真用紙、アクリルが重ねてビス止めしてあります。アクリルを固定しているビスを外すことで、使用者が自らケント紙や写真用紙を交換することができます。大きさは仮設住宅の縁台の幅と同じ50cmで設計しています。住人間での普段のちょっとした会話のツールとして活用してほしいと考えています。

また季節ごとに書き初めなどのイベントや写真撮影会を開催することで仮設住宅での思い出を形として残してほしいと考えています。



▲ 構成部材

JABARA chair

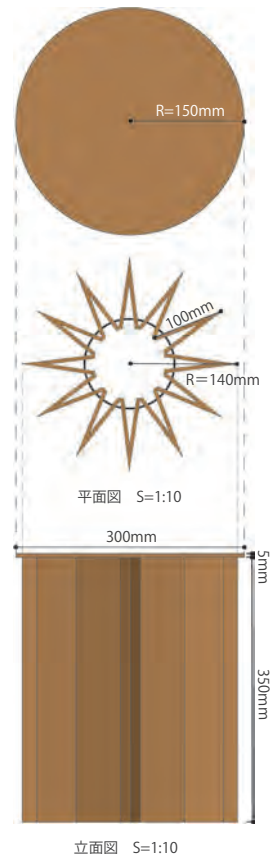


▲ 段ボールを使用しているため軽く、蛇腹状のイスは折り畳むことができコンパクトに収納可能。

段ボールと紐で作る屋内用簡易イス
 コロナ禍で現地の人々と直接会う機会が減少したため、オンラインでできるワークショップ用に子供用のイスを考案した。

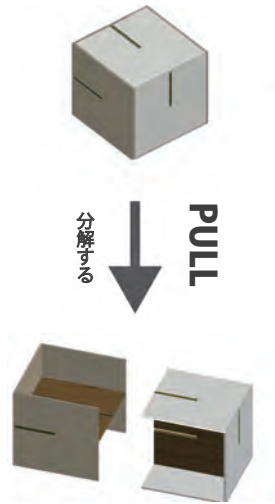


▲ 製作手順

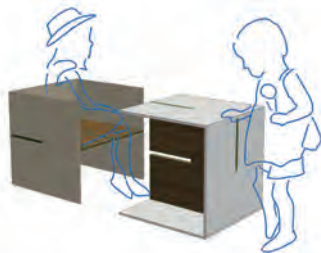


PULL chair

子ども用の木製椅子
 子どもの遊び道具、花壇、本棚
 等使い方自由。
 向きを変えれば机としても利用
 可能。



▲ 2つを噛み合わせてコンパクトに収納可能。



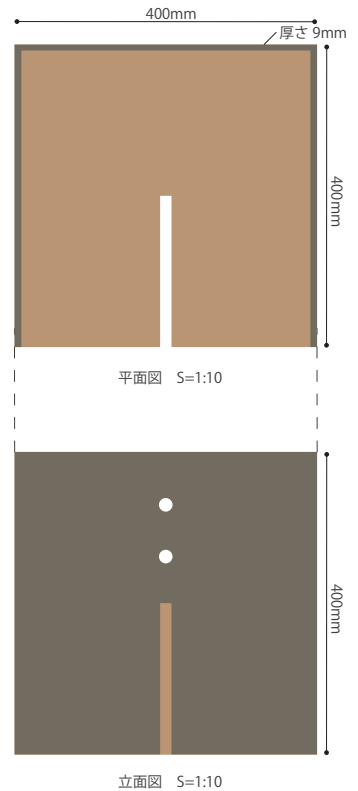
外で読書したり…



子供の遊びに使ったり…



本棚にしたり…



▲ 使い方の例

展開式ついたて



▲ 台を差し込み、鉢や小物を配置することで、各住戸の暮らしが住棟間に漏れ出るきっかけとなります



▲ 外部空間での活動や近隣住民との交流のきっかけを作ります

私たちは、住棟間に住人のプライバシーを保つとともに近隣住民の交流のきっかけになるような「展開式ついたて」を提案します。この「ついたて」は単に広げるだけでなく、すき間に色々なパーツを加えることで、様々な用途での使用ができます。各住戸の暮らしが住棟間にもれ出ること、近隣住民の交流のきっかけとなり、現在の仮設団地の風景をより賑やかにするのはないかと考えています。

材料

- ・ 木材
 - 60×90×700 (mm)...33 本
 - 60×90×60 (mm)...22 本
- ・ M8 全ネジボルト ...4 本
- ・ M8 ナット ...16 個
- ・ M8 ワッシャー ...8 個
- ・ M8 ボルトキャップ ...4 個

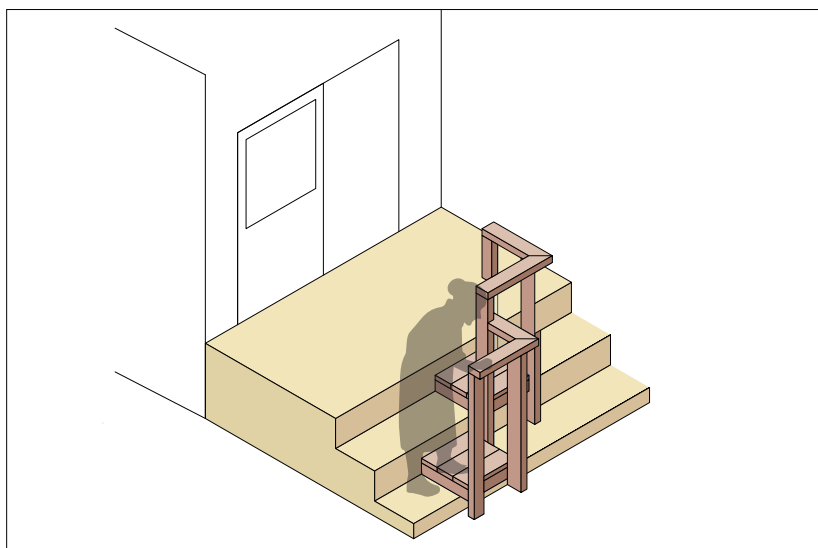
ippo ippo



▲ 既存階段を活かした簡易的な段差解消システム

階段の上り下りが難しい高齢者に対して、スロープ付きの住戸や既存の階段に段差を低くするパーツを後付けした住戸等がみられましたが、その数は少なく、設置に少し時間がかかるつくりになっていました。

そこで、より簡易的に制作・設置ができる段差解消のシステムを提案します。



▲ お年寄りの方が安全に階段を上り下りできます

ステップ アシスト



▲「縁台から降りる」という、これまでにない新しい行為を促します



▲ 縁台上に限られていた住民の生活領域が住棟間に溢れ出します

仮設住宅では住民が使えるスペースが限られるため、縁台で洗濯物を干す住宅が多く見られ、転落の不安を抱えているのではないかと考えました。また、住棟間では住戸の表裏がはっきりしており、閑散とした印象を受けました。そこで、縁側を住民の生活空間とすることで、住民同士の交流を生み、仮設団地に魅力的な風景を創出します。

材料

- ・木材
 - 45×60×816 (mm)...4本
 - 45×60×260 (mm)...3本
 - 45×60×226 (mm)...8本
 - 45×60×180 (mm)...3本
 - 24×910×1820 (mm)...1枚
 - 9×910×1820 (mm)...1枚
- ・ビス
 - 70 mm以上...40本
- ・釘
 - 60 mm以下...16本

広がる居場所 — 仮設住宅から住宅街へ —



現在使われている小さなウッドデッキに着目し、単に面積を拡張するのではなく行われる行為が増えることによりウッドデッキが拡張するように計画しました。そこでは住まう人々の生活がにじみだし、趣味や会話が起きます。アイデンティティやデザイン性をもつ“街”へと変化します。

▲ルーバーによって視線を遮るとともに、デッキを拡張させふるまいを誘発します



▲「拡張」によって住民間の距離が縮まります

布団干し台



▲ 腰をかけている例。物を干さない時はベンチとして使える

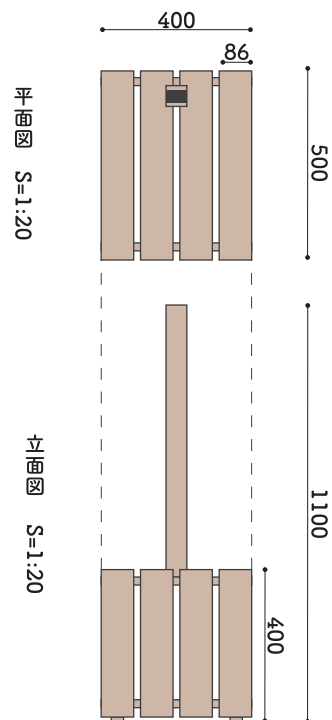
仮設団地には洗濯物を干すスペースが不足していた。そこでベンチとしても使える交流を生み出すような物干し台を考えた。



物干しとして使ったり



▲ 住棟の間に設置している例
日のあたる場所に移動させることもできる

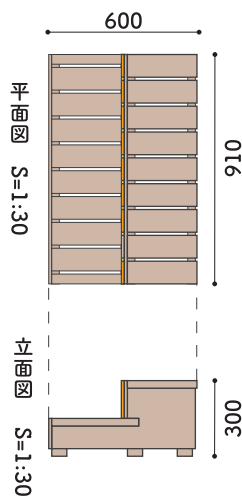
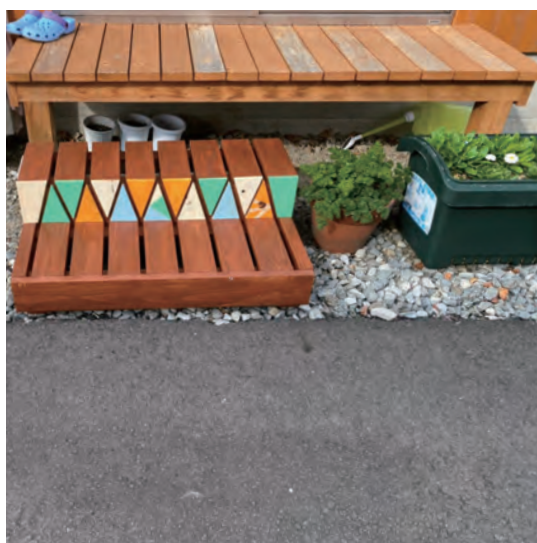


ふみ台

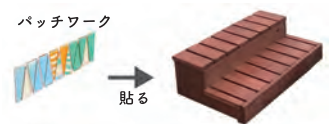


▲ 踏み台をおくと団地全体がカラフルに色づいていく

仮設団地の縁台は昇り降りしづら
らい。そこで階段のような踏み
台を考えた。
縁台の下に収納できる。



可愛いパッチワークは住民さん
と色を塗ったもので、段差を強
調するユニバーサルデザイン。



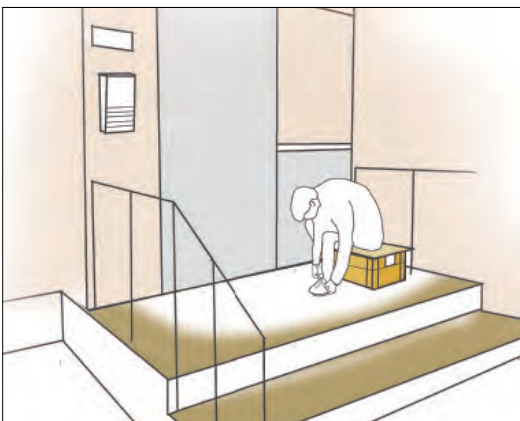
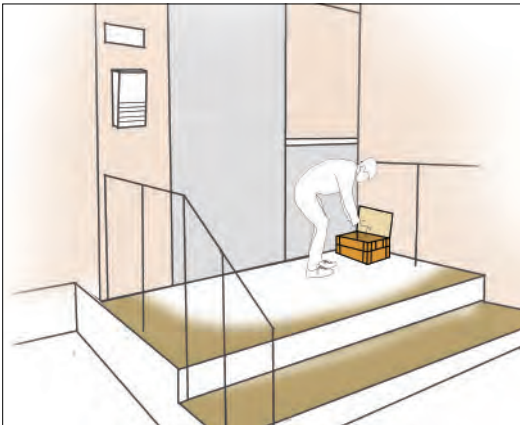
▲ 縁台に対して踏み台はこれくらいの大きさ

宅配ボックス



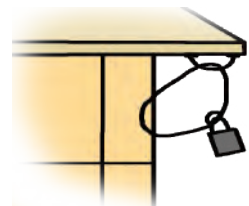
▲ コンテナボックスは耐候性に優れており、軽量・高強度であることから、外での活用や持ち運びに優れています。

仮設住宅の人たち、特に高齢者は交通手段が少なく、今はオンラインショッピングも増えてきているため宅配ボックスの需要が高まっています。そこで宅配ボックスを提供を考えました。また、ボックスを1から作るのではなく、身近なものや余っているものなど既製品を利用できないかと考え、田舎でよく目にするコンテナボックスを用いることにしました。



▲ 宅配ボックスとして使用することはもちろん、仮設住宅では靴を履いたり脱いだりする段差がないため、玄関先での椅子としても利用できます

防犯面については、ワイヤーや錠前を使うことで施錠し、手すりなどに固定します。施錠では、普段は開けた状態にしておき、配達員に施錠してもらいます。その後、手持ちのカギで開錠します。



Wood cube



wood cube のコンセプトは、「私のスタイルにはまる」です。自分の好きな形を自分で作ることができるもの。

これは、決して広くはない仮設住宅を、各々の家族が工夫をすることで、暮らしを豊かにしてもらうという意味が込められています。

▲ コンパクトなサイズで回し、重ね、幅広い種類の収納を実現します



▲ Wood cube の使用例

マトリョーシカ×□＝

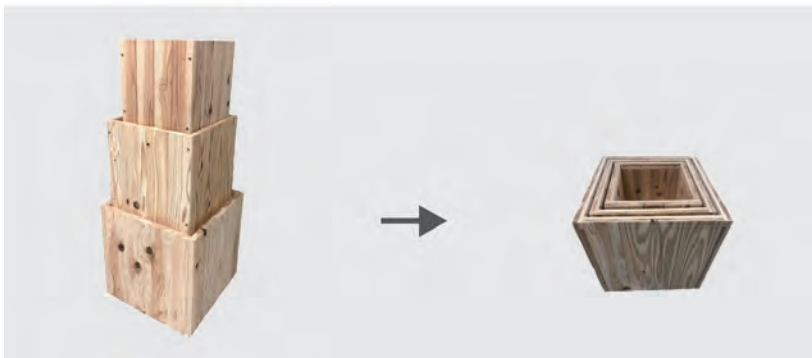


椅子として使ったり

花瓶置きとして使ったり

物入れとして使ったり

▲組み合わせて多様な使い方の例

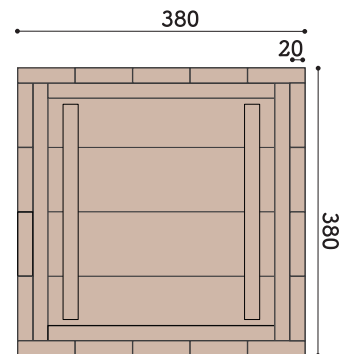


▲コンパクトに移動させやすいデザイン

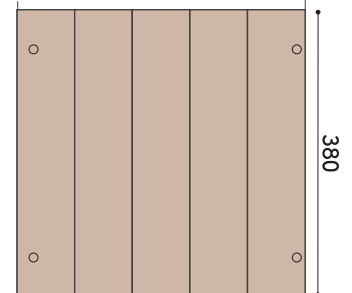


▲□（ハコ）は、色を塗り個性を出せる。

大・中・小の異なるサイズで作られた3つの□（ハコ）小を椅子に大を机として利用できるほか、組み合わせて多様な使い方ができる。マトリョーシカのように3つの箱は1つに収納可能。



平面図（大） S=1:10



立面図（大） S=1:10

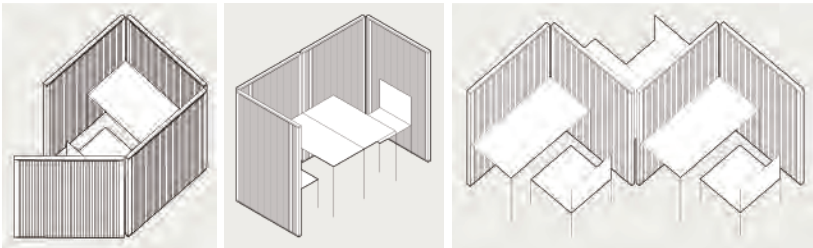
半透明屏風



▲ ポリカによって変化する風景

コロナウィルスの感染拡大により物理的な仕切りを設けなければならない時代となり、人との接触が避けられるようになりました。人と人を隔てるのが仕切りですが、日本人にとっての仕切りとは、強固な壁でなく、かといってクリアすぎるアクリルでもなく、昔から親しまれてきた障子や屏風のような半透明の存在です。

この案は、日本的パーテーションである「屏風」に注目し、仮設団地にとっても利用可能な素材であるポリカボネートを用いた半透明なパーテーションを提案します。



▲ 二枚一組、組数を増やすことで様々な空間利用ができます

材料

- ・木材
- ・ポリカボネート
- ・丁番
- ・ビス

領域を縫う



▲ 住民の活動に応じてタープをかけます

ムービングハウスを利用した仮設団地の配置は、直方体を整然とならべたものです。住戸周りが即パブリックな領域となり、プライベートとパブリックの中間領域がありません。空間を緩やかに区切り、領域を適切にデザインし直す必要性を感じました。

材料

- ・タープシート（難燃性ポリタフタ）
- ・フレーム（スチール）
- ・PE ロープ
- ・フック付リング

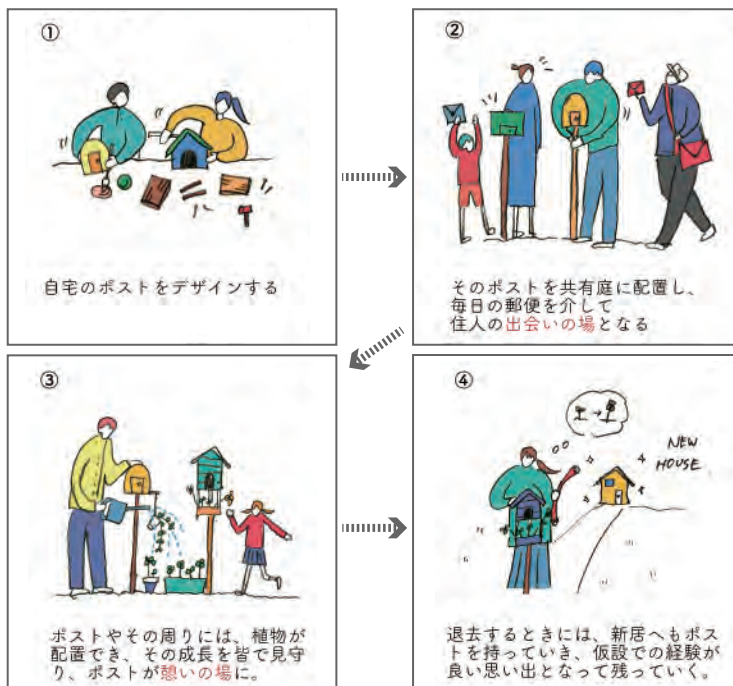


▲ タープの下でゆるやかな領域感が生まれます

post garden



▲ post garden を配置。植物の成長と共にコミュニティが生まれ、妻面通路が仮設住宅のプロムナードに



▲ post garden 作成の流れ

私たちは、どの家庭にもあって生活の中で必要不可欠な郵便受け（ポスト）を介して、疎遠になりがちな仮設団地でのコミュニティのきっかけづくりとなる「post garden」を提案します。

毎日外に出て確認するポストを、住棟の妻面に集めることで住民同士が顔を合わせる機会を生み出します。さらに、ポストは住民と協力して DIY で製作するので、ポスト自体にも愛着が湧きます。さらにポスト周りに植木鉢を置いて家庭菜園や園芸など庭のように使いこなすことで、寂しい印象だった住棟の妻面が明るくなります。またポストは退去の際に新居へも持って行くことで仮設での経験が少しでも良い思い出として残って欲しいと願いながら考えました。「ポスト」というモノづくりから、「post garden」という住人たちの出会いの場、そして集いの場となっていく仮設団地の「ことづくり」を提案します。

藎草の行燈照明



▲ 点灯した様子



▲ イメージ写真



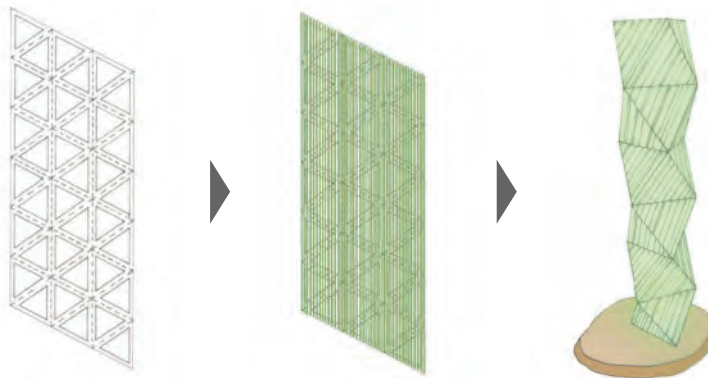
八代の藎草で製作した建築的造形を持つ照明。藎草自体が調湿・浄化の効果を持っているため、部屋を明るくしながら室内の空気を清潔にします。

畳表の素材である藎草は多くの方々に親しまれており、その日本での生産量は熊本八代平野が大半を占めています。しかし、近年では中国から藎草の輸入品が大量に流れ込んできており、本来質が良い八代の藎草が、安価な中国産の藎草の陰に隠れています。現在の国産藎草産業は衰退傾向にあり、今年7月の豪雨の被災地でもある八代市の藎草農家も厳しい状況にあります。

今回の KASEI 活動を通して、八代の藎草を使用し、改めて国産藎草の良さを伝えるとともに、藎草産業の方々の力になれることを望んでいます。

寸法

- ・高さ:40cm
- ・直径:10cm
- ・台座の直径:20cm



▲ 製作手順

令和4年度 参加学生

ぱったり床几 半透明屏風	第一工科大学 副田研究室	有田大晟 榎田李宇玖 川口舜也 末吉玲 世古匠 田中俊弥 永井元紀 半下石陸 吉田慶祐 六田和宏
Hourglass chair Wood cube ミニちゃぶ台 ippo ippo	熊本県立大学 佐藤研究室	塩谷葵 西本改 丸山美咲 石田有希 橋本理彩子 和田明希歩
「名前」のない椅子	長崎大学 安武研究室	川村拓也 佐藤龍介 前平正樹 秋永雄一朗 犬丸晴次 井上聖隆 北村知聖 奥原智裕 中村友哉 平野雄三 太田珠美 九万田大 西川悠斗 初山恵 林健太 藤田渉
展開式ついたて	鹿児島大学 鷹野研究室	山田凌大 永田雄大 鈴木芹奈 田島あき
ステップ アシスト	九州大学 末廣研究室	川野まど香 大歳駆 Takudzwa Chikwanha 成枝大地 西村香多郎 林田章吾 宮田泰地 友廣佳太 塘口慧
広がる居場所 —仮設住宅から住宅街へ—	九州産業大学 矢作研究室	一ノ瀬晃 関太一
宅配ボックス 蘭草の行燈照明	崇城大学 内田研究室	今井華 有地聖峻 柿坂香菜 岸川みずき 右田万美子
マトリョーシカ×□ JABARA chair PULL chair 布団干し台 ふみ台	福岡大学 四ヶ所研究室	福永脩生 玉川智衣 小泉龍之介 古後陵 佐藤直哉 下川楓翔 立野結菜 辰本桂 中村絵美莉 玉川絢子 清水菜月 鳥飼小華 中川蓮也 萩尾匠 百武幸希子 松尾優衣 松本真哉 赤松里恵 有田葵 用松慧哉 畠山桃歌 堀口知聖 吉富美代
領域を縫う	九州大学 田上研究室	香川貴紀 小野晴太郎 大淵早紀 中嶋みづき 佐藤雄馬 山中雄登 玉那覇寛明 常田朋弥 佐渡恵太 佐野春佳 金井樹
post garden	熊本大学 田中研究室	今泉達哉 東大貴 入江匠樹 武田さゆり